

今、教育委員は！

平成 28 年 1 月
教育長 糊澤 晴樹

皆様 新年おめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

本号 テーマ：宇宙⇔ふるさと（地球、日本、故郷、我が家、我） ○ はじめに

平成 27 年は、地元出身の宇宙飛行士油井亀美也さんの活躍をはじめとして、宇宙関連の話題がたくさんございました。人々の気持が外へ、宇宙へと向かう話題は夢があり元気も出て、いいものです。

私は、佐久市子ども未来館で行われた 3 回のイベントに参加させていただきました。油井さんが搭乗したソユーズ打ち上げ時のパブリックビューイング、ISS 滞在中の油井さんとのアマチュア無線交信、そして地球への帰還時のパブリックビューイングですが、世界的偉業の貴重な一瞬一瞬を、息を呑みながら子供たちをはじめ大勢の市民の皆様と共有させていただきました。



新年を迎え、決意を新たにする節目をいただいておりますが、以下に紹介する油井さん関連のエピソードは、自分のありようを考えるひとつの参考になろうかと存じます。

1 先達の歩みを自分に引き寄せるある少年の学び

油井さんからは、宇宙船内の生活の様子や、無重力状態における様々な物理現象等について数々の興味深い情報をいただきましたし、今後もいただけることでしょう。子ども未来館で行われたアマチュア無線による交信でのことです。あるお子さんから、「子どもの頃の体験で宇宙飛行士としての活躍に役立っていることはありますか。」と質問が出されました。油井さんは、「川上のレタス栽培で、家の仕事を手伝って汗を流したことは今の自分に通じています。」と回答。



さて、交信終了後の未来館でのインタビューで、このお子さんはこんな決意を述べてくれました。「自分もこれからは家の手伝いを進んでやるようにしたい。」と。自分の現在のありようについて「進んで」という視点から新たな自己課題を見出した少年に大拍手を送りたいと思います。＜子どもの頃、畑で手伝う油井亀美也さん＞（写真提供：油井誦司さん）

2 「自分」の見つめなおし

油井さんからのメッセージの中には、「ふるさとを離れてふるさとを想う心」が随所に表されております。「ふるさと」というのは、地球という天体であったり、日本であったり、生まれ故郷の川上村であったり、また、時には「家族」と置き換えられるかもしれません。大きい意味で「自分」ととらえることもできそうです。

ふるさとを離れてふるさとを想い、その実像を見つめなおす油井さんの姿に、自分づくりの課題を見つけるプロセスを垣間見させていただいたような気がします。

写真を添えられなくて残念ですが、2つのメッセージを紹介します。

□ 「地球って、水の惑星だなあ」と想う瞬間です。ISSでは水が貴重。可能な限りリサイクルし、飲み水にしたり、酸素を作ったりしています。「このシステムが一般的になれば、地球さんも少し楽になるかなあ。」尿や汗のリサイクル水は抵抗ありますか？

(2015, 12, 3)

□ 土曜日に撮影した富士山。紹介を遅らせたのには、少し個人的な理由が。

実は、20年前の今日、私達は入籍して夫婦になったのです。富士山より高い日本の最高地点から贈る妻へのプレゼント。今日は「いい夫婦」の日ですから、皆さんもお幸に。

(2015, 11, 22)

○ おわりに

学校では、「まとめの3学期」がスタートしております。昨年 of 新年号でも申し上げましたが、「まとめる」という行為は振り返ることに加えて、明日への展望をもつことが重要です。

これまた、油井さんのメッセージを添えて結びといたします。

「夢をかなえる第一歩は、夢を持つこと！次のステップは現実を見据えること。

そして最後のステップは、現実と夢のギャップを埋めるために頑張ること！ですよ。」